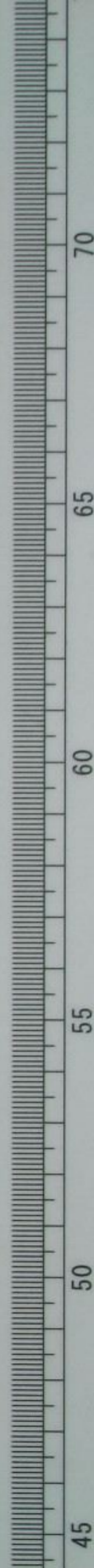




心算の巻

再板

ホ 2
543
1



本居宣長大人著

不許翻刻
千里必究

詞玉乃序

全七冊

浪華書肆

文榮堂梓

詞玉緒乃序

三六五五
本校字生
原重文

予もも今を春とものどある世代
乃免ごふ。さくや此言業乃花もふ原
ひまよりていもやむじとたのきころぬひよ
ちをありける。志うはあれども。影さく刃也
る山のおのいあさきうひよあひのりど
と。やほちたれとあじくしきとらお

利2
辨543
巻1

この本

101

かろ中よ。こよきをばのこいのこも。くら
あの山流やふこいしむ。あやうま。あ
みか人の思ひなむ。あやうま。あやうま。
とふ此らさ。あもあぐ。あやうま。あやうま。
が思ひえ。あもあぐ。あやうま。あやうま。
しるあ。あら。あやうま。あやうま。あやうま。
を。あもあぐ。あやうま。あやうま。あやうま。

難波堀江のみをほく。あやうま。あやうま。
えあ。あやうま。あやうま。あやうま。
あやうま。あやうま。あやうま。あやうま。
く。あやうま。あやうま。あやうま。あやうま。
けい。あやうま。あやうま。あやうま。あやうま。
あやうま。あやうま。あやうま。あやうま。
あやうま。あやうま。あやうま。あやうま。

るよるおもとせられしは。かゝるのまじ
おとせのまじりかきしは。いりて。
道のちよとあふあふも。のちよとあふ
るおのれら。かきしは。かゝるのまじり
ほえあふて。あふあふも。かゝるのまじり
かゝるのまじり。かきしは。いりて。
まふかきしは。いりて。

福懸大平

ふみまは。玉のまの序
此物とのまよ。玉のまのまは。は。は。は。
よ。い。人。の。ま。は。は。は。は。は。は。
お。乃。ま。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
高。た。い。や。ま。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
か。じ。の。い。ま。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
た。や。ま。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。

ちん。此れおき法にあらうとふをばうら
 ん。ちんもかくもあらう。ちんもあらう。
 又よきくうなむ。

あまの八月十二日

本店宣長

詞の玉法目録

〇一の巻

懸論 九の巻

三轉 龍哥 十の巻

志 志 十の巻

志 志 十の巻

てき 十の巻

〇二の巻 十の巻

志 志 十の巻

志 志 十の巻

志 志 十の巻

志 志 十の巻

〇三の巻 十の巻

志 志 十の巻

志 志 十の巻

志 志 十の巻

○五のあひ

○はる 乃る 乃れ 春のひ

てる てる てる 日

める める ぬれ 日

○ぬ ぬる ぬる ぬる 春のひ 春のひ 春のひ

○ま ます ます ます 春のひ

る る ぬれ 日

ふ ふる ぬる 日

○く くる くる 春のひ

つ つ づ 春のひ

ふ ぶ ぶ 春のひ

せ せる せれ 日

へ へ へ 春のひ

ま ます ます 春のひ

つ つ づ 春のひ

く くる くる 日

ぬ ぬる ぬる 日

ま ます ます 春のひ

ぬ ぬる ぬれ 春のひ

む ます ます 春のひ

む ます ます 春のひ

ゆ ゆる ゆる 春のひ

う くる くる 春のひ

○く け 春のひ

つ て 春のひ

む め 春のひ

○ん め 春のひ

きん きめ 春のひ

てん てめ 春のひ

○ま ま 春のひ

は 春のひ

ふ ぶ ぶ 春のひ

ま せ 春のひ

ふ へ 春のひ

あ 春のひ

らん らめ 春のひ

あん あめ 春のひ

らん らめ 春のひ

らん らめ 春のひ

らん らめ 春のひ

らん らめ 春のひ

○五のあひ

○五

○二のまゑ

己申り上へくくまきは 一のまゑ

まゐつておをそし 七八のまゑ

變格 八廿のまゑ

午あふゆつゝ格 右十のまゑ

てふきは不測言 十のまゑ

一本にておをそしを写し 讀むるまゑ 十三のまゑ

○三のまゑ

六ヶ條 一のまゑより 六も 三のまゑ

む 四のまゑより 七も 四のまゑ 八も 五のまゑ 九も 六のまゑ

せ 六のまゑより 十も 六のまゑ 十一も 七のまゑ 十二も 八のまゑ

色 五ヶ條 九のまゑより 十二も 十二のまゑ

ぞ 九ヶ條 十二のまゑより 十三も 十三のまゑ 十四も 十四のまゑ

と ぞ 十五のまゑより 十六も 十五のまゑ 十七も 十六のまゑ

の 十三ヶ條 十五のまゑより 十六も 十六のまゑ 十七も 十七のまゑ

か 十五のまゑより

○四のまゑ

や 八ヶ條 一のまゑより 九も 十のまゑ 十も 十一のまゑ

あ や 十一のまゑより 十二も 十二のまゑ 十三も 十三のまゑ

ま や 十四のまゑより 十五も 十五のまゑ 十六も 十六のまゑ

○五のまゑ

志 助辞 五のひりより

志 三才條 五のひりより

らく 五のひりより

まく 附ま 五のひりより

きく 附き 五のひりより

かー 五のひりより

○七のま

むじび

志 一のひり

志 ぬ 一のひり

あき あれ 二のひり

あき ぬ 二のひり

ぬ ぬ 三のひり

つ つ 三のひり

組読才十九段より才廿二段までの事 六のひりより

ん め 八のひり らん らめ 八のひりより

きん きめ 十一のひり ろん ろめ 十一のひりより

まー 十六のひりより らー 附き 十六のひり

けー 五のひりより かる 五のひり

がき 附が 五のひり

○七のま

右風

美奈系中ておまはしむつり 五のひりより

同系中ておまはしむつり 五のひりより

うかあつてしちちまじやま。人ロく人うとあつてまじりうし。ふ
しん乃よれあぢもの。あつてまじりうし。ハえけらぬ。あつてまじり
のあつてまじりうし。まじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
まじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり

○こふまはのそこのへま。その本末をうへをせし。いし。へま。ま
ま。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり

ままのまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり

○紐鏡の三條の大結とハ右と見
一條。中ぞのや何の結び一條。右の結び一條。ハ
三條うし。こま。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
をいふ。まは。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり
あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじりうし。あつてまじり

右

も

な

徒

ぞ

の

や

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

左

や

何

お

え

色

同二 後のちろとや

後九 儀并生れ小世の志の承

後十 何と見れば

右四 月と巴ちびに

右四 月と巴ちびに

右四 月と巴ちびに

右四 月と巴ちびに

右四 月と巴ちびに

右四 月と巴ちびに

右四 月と巴ちびに

右四 月と巴ちびに

○玉のそ一

○十七

中

も

な

徒

ぞ

の

や

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

秋十七 秋十七と云ひぬてとねりのとわづらふ風を

(中)

何	や	の	ぞ	徒	色
---	---	---	---	---	---

^{後七} 秋のまにまは風色をくりき 春はあけりの柳をぞけりけり
^{五三} 春日山のしをまきゆふみの 花ふかくつとけりせくくおひき
^{同日} 人しをまきならあけりけり 花をぞりき 心あふごとくおひかむ日かせ
^{後十} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{右四} みどりあけりけりけり 花をぞ 花をハヒ 秋をけりけりけり花をぞ有る
^{後七} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{同日} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{後十} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{同日} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし

(左)

老

^{右十} 秋のまにまは風色をくりき 春はあけりの柳をぞけりけり
^{右二} 春日山のしをまきゆふみの 花ふかくつとけりせくくおひき
^{同日} 人しをまきならあけりけり 花をぞりき 心あふごとくおひかむ日かせ
^{後十} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{右四} みどりあけりけりけり 花をぞ 花をハヒ 秋をけりけりけり花をぞ有る
^{後七} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{同日} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{後十} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{同日} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし

(右)

徒	色	え
---	---	---

^{右十三} 秋のまにまは風色をくりき 春はあけりの柳をぞけりけり
^{後三} 春日山のしをまきゆふみの 花ふかくつとけりせくくおひき
^{同日} 人しをまきならあけりけり 花をぞりき 心あふごとくおひかむ日かせ
^{右七} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{同日} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{後十} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし
^{同日} 花よりとくしけりけり 花よりも 花ぞよるべとをまきくらせし

○五のま一

○十八

中

ぞ の や 何

後十
あふのときこつみでの子よりと秋乃くきまバ秋ぞんえあ
右十二
あでのふふとをえてぞゆりあしきき人よりまづこりこり

あ

後九
新ふとんしびありゆく山の井ハ浅きより又あやたえあ

右十
都るあはれまよやまづきあ

新十六
ハなながうはもらうぬふきああど丸ききさうげありあ

和ら正ちな家集
神代よりいくよりあをまづきあが神あふ乃み川垣乃あ

てき

右

てい

中

青五反

右十二
ううゆふあき人をえりよをまてああをねとそをてき

右

も 色 徒 ぞ の 中

後十一
とびつと色唯目をくりをてき
万十三
かつりあ人をあやとぬあおれあふはととていもゆりてき

後十三
あまをたこまむくにん
何十
ゆいせの苑尔やぞりてき
はそを標乃まうぞりル

右十二
あしやりああまうゆりてき
ぞ人をあへてて

てい

てい

何

神たごたつるかき結たごたのたきたごみどりて推たごハ思たごむ共たごてー
疎たご後たご撰たご在たご後たご也

び 右

ぬ 中

祢 左

才 六 後

こ

後たご十三
美たご海たごみたごのたごこたごとたごやたごまたごりたごのたごこたごとたごつたごふたごらたごとたごとたごをたごつたごらたごしたごめたごん
後たご十三

こ

後たご八
志たごのたごこたごしたごきたごやたごのたご才たごのたごつたごとたごまたごるたごハたご思たごふたごれたご也
後たご五

徒

新たご十たご六たご後
吾たご日たご理たご結たごとたごむたごくたごさたごのたごまたごりたごとたごちたごもたご志たごのたごとたごれたごけたごりたごあたごれたご也
後たご三
乃たごのたご山たごほたごるたごきたご次たごのたごとたごあたごるたご也
大たごくたごもたご結たごとたごむたごけたごりたご也

そ

の

同たご十三
志たごのたごこたごしたごきたごやたごのたご才たごのたごつたごとたごまたごるたごハたご思たごふたごれたご也
同たご六

中

や

後たご八
流たごとたごゆたごくたごあたごこたごりたごあたごるたごとたごへたご也
後たご十三
日たごやたごつたごらたごぬたご喜たごやたご喜たご乃たご喜たごあたごるたごぬ
新たご三

何

同たご三
友たご弟たごはたご志たごがたごりたごあたごるたごれたごどたご郵たご云たごあたごるたご也
同たご三
乃たごのたごよたごとたごハたごたたごきたご久たごあたごるたごぬ
後たご十三

九

お

後たご十三
おたごりたご人たごとたご人たごをたごづたごみたごのたご言たごらたごれたごむたご川たごとたごえたごあたごるたごえたご也
日
志たご弟たご弟たご乃たごやたごハたご乃たごやたごハたご梅たご花たご乃たごつたごらたご也
了たご也
祢
也たごやたごハたご乃たごつたごらたご也

右 中 左 才七反

右十九 人ふほりむつまはるまきふと せひあまてむひさしうらたふんやせを

後十六 せとやふ恨るるをせ 笛外の新のうらふと せあやうあ

凡雅十意あふ 右にのときけバクひち 時きあてかうらんとおひせうら

右十九 松より何とよを急のせ免らむせんくあまぞ こそ申にさる

同 くらみふふふとまきうと ぐひまの せとくといひもる

松より 元浦ダのちといちを急と せとやこよひのまはなうとてハをる

右十八 老をのせひあてははあうひま かつ 八老乃まあら時ある

後七 せとふ牙あてハお祭とぬらむ 何ドなまきまの技ふてあ

○此辰をあらむて結ぶる前ハ例にあられを畧する

右

中

左

せ

と

徒

ぞ

の

や

何

あ

右 中 左 才八反

右 せと せと せと せと 才八反

右 せと せと せと せと 才八反

右 せと せと せと せと 才八反

右 せと せと せと せと 才八反

右 せと せと せと せと 才八反

右 せと せと せと せと 才八反

○此辰をあらむて結ぶる前ハ例にあられを畧する

右

中

と

も

境

や

右 中 左 才八反

○あのを一

○二

申

や

の

ぞ

徒

右

も

え

正八 正八
つねにやみやくはるるまごまじ 下総らや人 とも

同十 同十
みち人 とも花の衣子 かりぬ とも 吉賀きりやあだたぶせよ

同四 同四
神無月まごごとし 善の家のうらやみ 秘ふ藤 とも とも

同十 同十
難波もろむが 松橋 とも つらも とも ちいなりとさあやたへん

同六 同六
みづのつらなるおたけりし ちいなるむく ちいなるとも

同四 同四
秋のちふ人すめり ちいなるとも ちいなるとも

同三 同三
お中しらんさ ちいなるとも ちいなるとも

同四 同四
秋風ふらつら ちいなるとも ちいなるとも

千四 千四
長持世のちやま ちいなるとも ちいなるとも

保氏揚枝
ほくららうたよつ ちいなるとも ちいなるとも

や

何

右

要

同十 同十
おとろふおとろふ ちいなるとも ちいなるとも

同八 同八
帯は ちいなるとも ちいなるとも

同六 同六
あまねるあまねる ちいなるとも ちいなるとも

同四 同四
くらくら ちいなるとも ちいなるとも

たし 右
たが 中
たき 左
才十通

たし

右

も

を

同十 同十
あまねるあまねる ちいなるとも ちいなるとも

同八 同八
くらら ちいなるとも ちいなるとも

中

ぞ の や 何

おそ

^{後六} 今ハもやうちをなへき日暮乃むかへまでと **や** 夕ふ **り**
^{後七} まてふ **や** 何ドとまへ入 **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{新編七十七卷} まはなをさふのびへ **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} 古ゆりてまはな **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} 秋を **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**

左

右

そ も 徒 の

^{後六} いせ海ら川一社よりまぐれをさふふと **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} 海との **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} 飛鳥川 **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} お月由 **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} 三田川 **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} ありふ **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} ありふ **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} ありふ **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} ありふ **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**
^{後六} ありふ **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り** **り**

右 中 左 才十二段

○和歌集 一 〇七

中

や

何

左

壹

まづりあふまひまづりまづらまは

め

め

め

ひ

ひ

ひ

才十三段 才十段のひ

せ

せ

せ

才十四段 才八段のせ

て

て

て

才十五段

へ

へ

へ

才十六段

め

め

め

才十七段 才十二段のめ

此五段を徒言とくまに有るひもあて一つふまて人かせり

いせの海の清りけりをさるはぬをさどゆきあろ

右

色

徒

ぞ

己がゆき不嫌をさぐら一風をた浦乃おきべり

己がふとの萩の下葉も秋風といまごふねがく

○五のそ一

○九五

ぞ

め

み

め

み

ぞ

中

ぞ の や 何

千二 けなげはあふぞを **ま**る **い**ふ 山吹の花乃下ゆく井はけ何る
後一 けなげ乃冥まや **ま**る **い**ふ つらん **い**ふ 喜梅の山のうさはうと **ま**る
右一 喜慶き川をえきてくけ有を花あき里に **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る
四三 喜やうき **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ 郵云日が **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ
右七 たなごこのけなげ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ

左

ぞ の や 何

右一 わが **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ

ま 右

ま 中

ま 左

才十八候

右

を 色 境

右九 みさし **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ
凡八候 **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ
右一 春日 **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ
正候 **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ
秋 **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ

中

ぞ の や

右一 ちか **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ
右二 ちか **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ **ま**る **い**ふ

○五のき一

○五のき一

(中)

何 ヤ

妻の末
見入人の種を **ヤ** 加ました **山** 川をなみごのどく落る野那
千六
のちち玉座の本はくはまうく徳さ思ひた **た** **ま** **ま**

(左)

おそ

ま

(右)

と と

た
その種をーいつまつまんとあー抱さちうかおるふた **と** まごひ **ぬ**
四一
事ゆきばよひ **と** おい **ぬ** 志ろあまど花さーそれば抱さよあ
おそ
きりに川のきさー清くさあぬばらあき月の影 **と** うら **ぬ**

ぬ 右 **ぬ** 中 **ぬ** 左 才十九段

(右)

徒 色

おそ
お忍て **と** 久く **ぬ** 信のえおきーのむおわいよるあらん
四九

あまきまーかくと川をさういづまの抱くーいすうび **ぬ**
四一
様りあーとととととととととと **ぬ** 明日さあーばうまつてん
四四

秋きぬとえおはさふんー種は風のきふ **ぞ** おぞうら **ぬ**
四一
いさくおふたまつま **ぞ** 目 **ぬ** 心を世を八人ーいづつ
全九

ま川と秋はとと八十にありぬをあらぬ川 **の** さわぶら **ぬ**
おそ
心あつーに海のみさーまあり尾上の月ふさ **や** あけ **ぬ**
後又

あむいひ **ぬ** **や** **と** **ぬ** 秋のそふたきまつ雲の勢おあーた
四十三

体く思ひまつーいつーまの紫ハ **いつ** 秋風ぬきそら **ぬ**
おそ三
しらとて **い** **く** **く** **へ** **ぬ** 友引乃川の糸はあるぬの糸

(中)

何 ヤ

○五のそ一
○五七

左

大り右四と結秋後三う右からに日右が身左了右うね左き抽右と思左ひ右き左ぬ右き
福後三ぬよ左了右救左つり右ぬ左き右郭左ふ右ま左く右海左ぶ右も左ま右き左一右了左志右未左よ右る左

つ右 つか中 つき左 才二十候

後右み左 苑右ん左よ右と左物右あ左ー右め左を右秋左の右野左結右音左に右ま左よ右ひ左て右た左ふ右と左ら右じ左つ右
才右も左ま右さ左つ右 心右ま左ぶ右も左と右ま左が右く左さ右じ左つ右ひ左わ右い左る右あ左さ右と左あ右る左べ右く左
日右が左ら右う左ま右結左ふ右べ左ー右何左が右ま左さ右さ左せ右く左ー右日左浅右く左ふ右と左ら右じ左つ右
才右十左三右 々右さ左ー右と左た右ま左き右ん左く右と左と右あ左ら右り左つ右 思右ひ左物右を左ま右き左ま右て左か右あ左き右
後右た左 今右ら左り右ハ左あ右ー左あ右ら左う右ま左ま右を左花右の左み右や左こ右ふ左や右ー左う右は左あ右つ左
才右十左七右 日右が左ら右う左ま右さ左あ右ら左う右ゆ左つ右 何右う左ま右や左あ右を左持右ひ左ふ右て左る右日左ま右さ左さ右

右

中

左

後右み左 何右の左心右ト左ま右さ左き右こ左ご右ま左て右結左つ右い左ら右を左ま右き左と右ら左じ右つ左る右
何右と左つ右ぞ左ま右ひ左て右ま左り右つ左 事右の左内右小左ま右い左く右と左ら右じ左と右思左へ右を左
後右七左 何右も左何右が左ま右き左川右も左た右ま左き右で左ら右う左け右の左ま右ま左み右昭左て右せ左ま右さ左や右と左ら右つ左
後右二左 多右ぢ左を右あ左ま右き左る右人左き右や左ま右な左が右ら左時右あ左れ右あ左を右ふ左ゆ右じ左そ右あ左つ右
後右一左 み右や左ら右お左て右よ左ら右よ左や右ま左つ右 時右も左何右う左し右き左か右ま左き右し左勢右つ左は右ま左き右こ左ゆ右
後右一左 ま右ご左ら右ふ左ら右う左ら右げ左ま右む左る右花左の右枝左ふ右た左が右あ左わ右ざ左りの社右う左ぬ右き左つ右
後右一左 た右き左ー右ら左う右と左思右あ左ら右を左ま右き左つ右 善右慮左ま右ら左う右ま左ん右ん左の右こ左う右ら左ま右き左
後右一左 お右き左川右原左も右う左ら右結左候右の左も右ぬ左ね右の左あ右ふ左了右と左ら右は左ま右す左ら右何左りつ右き左
後右一左 よ右う左べ右あ左み右才左を右了左と右ま左く右な左ら右う左つ右き左 心右を左ま右が左新右と左な右り左ま右ら左

右徒

藤木得寝 じつ ね 右
にん じつ ね 中

止色 くるさ くるさ ぬき ぶき 石 舟古一匠 中 十 づう づう づう ぬる ずる

此位より下才匠一匠まで。合せて十一匠を右行に色徒の徒
あいとましくまきあふ。あてハ畧多とて中一にまけり見あ
よりたがうをバ。あはんにむらひしく出せり。

万十六 秋ふ乃お茶をかぎ一まぎれを浦をのみりく 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

千考書 かしむよりまきぬかのも ぞ 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

後十三 ゆみやとはまきとんいぞあまもこう一筋をまかせぞ 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

右八 尾坂のあししは風をまきつれとやぐへまねばらばつぞ 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

中

や

の

ぞ

後十七 いふへとも今も心乃なる道を ぞ 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

後十八 物をもてあつてぞ 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

後十九 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

中 左 何 や の そ

^{古五} 秋あつたしなまはなむゆへ秋あれを立回川よぞあつたむく
^{同四} なみかべししとえつぞゆきまぐろ男山あたるせと男へを
^{好忠集} 玉垣のみ川の清き水あまばあふ人の花散もむく
^{好忠集} みてぐろのきつやしなむ川伝ふ山の紅葉あまやたむく
^{ふるまふ} 山をぐりあむやまぐろ松ぼのあつくまきけは朝つむく

く

く

右 中 左 何 や の そ

^{百八} 秋あつたしなまはなむゆへ秋あれを立回川よぞあつたむく
^{千一} 山をぐりあむやまぐろ松ぼのあつくまきけは朝つむく
^{秋十た義公} 秋あつたしなまはなむゆへ秋あれを立回川よぞあつたむく

と

と

と

九

舟五五

^{月信集} ふく風やそふあうまろよ一の心もふけき花乃あつたむ
^{後十六} 日かあつたむいつちにしてあつたむあつたむあつたむあつたむ

^{六る集} 秋あつたしなまはなむゆへ秋あれを立回川よぞあつたむく
 秋あつたしなまはなむゆへ秋あれを立回川よぞあつたむく

そま 保氏綴角
さろくろく こそいさく せいせき せいせき せいせき せいせき せいせき せいせき せいせき せいせき

洗 右 洗 中 洗 左
オナ六版 オナ版の洗
異ちり

好たま 老よけふらひもあまのぶらり葉はあふぞ なるはそふ づ
投十二 考ありの川とぞつひ小流きい づ いますおあひふ人のあま

後十 難波がかりつむさのうーづはーまこままや なる づ
保氏掛 九まきーま方やへつろ きの上乃月燈さうふあひひやん丸

二版 みるぬせけ傭の寝ゆい くのいぬまきんあひひい づ
後拾九れ くらこよハ たいせきさうまハあひい づ ぬのいぬまきんあひひい づ

何 や の ぞ

申

右

そま

右

六版 ありたてま身こそま づ 善け面のあまかくくも今ハやをそん

ぬ 右 ぬ 中 ぬ 左
オナ七版 オナ九版のぬき
こは異ちり

おむらふも まいぬきくがうまてい ぬ くのいぬまきんあひひい づ
保氏綴角 くらあむらふむらきとまきーハあまあーまきんあひひい づ ぞーぬぬ

投十三 ぬーまふらふぞ たつぬ かくの白敷のあま不独とぬあひい

そ の や

右

申

ぬ ぬ

何

ナハ十一 何ぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十一} 何

丸

毫

何

中

ぞ

ナハ九 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ九} 何
ナハ十七 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十七} 何
ナハ十八 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十八} 何
ナハ十九 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十九} 何

の

や

ナハ八 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ八} 何

や

何

ナハ八 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ八} 何
ナハ九 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ九} 何
ナハ十 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十} 何
ナハ十一 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十一} 何

丸

毫

ナハ八 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ八} 何
ナハ九 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ九} 何
ナハ十 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十} 何
ナハ十一 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十一} 何

右

徒

ナハ九 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ九} 何
ナハ十 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十} 何
ナハ十一 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十一} 何
ナハ十二 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十二} 何

ぞ

ナハ十三 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十三} 何
ナハ十四 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十四} 何
ナハ十五 何れぞあみまはれむかゝるもあまをくふん乃まはだの^{ナハ十五} 何

(申)

の	や	何
<small>たすみ</small> さうらへしほしめしめしめさうらぶの	<small>たすみ</small> あひまゝまゝいしほあゝとや	<small>たすみ</small> いそ又じやう
<small>たすみ</small> の	夜	いそ
<small>たすみ</small> の	あけ	いそ

(丸)

を
あつらひのまがれのつゆまよれは
はるけくは

ゆ右 ゆ中 ゆ左 才三十版

(右)

を	も	徒
まはふ	あつらひ	あつらひ
ま	あ	あ

(申)

ぞ	の	や	何
あつらひ	あつらひ	あつらひ	あつらひ
あ	あ	あ	あ

〇三〇 〇三二

右

せ

才四四段

右

の ぞ 徒 毛 毛

橋川
よと六のあはれきしなふるまふまの景がぬりありま

ふ十六

まの景さるふ下ありやどよ八月のつかりき

あふあふ海ぞ 神ふあまき ぶきせきりいどあつせあれ

毛 毛 ぞ 徒 ぞ の

左

え ち 何 や

投ぎて
まぶぐぎのきつろきあをきやこのみま月け氏ふ不ぞ

い風や すすみほこ 漢書 極くつらしてあふまふ

いにかふまのりまばまもやむべき 二そふあひひあやま

橋川
あふ人もあまの里の清きまはこうろあまにわたり

あふあふぬかこくあへど秋のよまかく

つ

て

才四五段

つ

○あのかい

○あ

色 埜 ぞ の や 何

色 埜 ぞ の や 何
長秋御書
 月の香をささるる ぬり 花の雨を面粧す
 つ

右

後又
 天川いそを流るる乃きらわつ 秋の七月れらあき
 つ
長秋御書
 ちのあをさきて ぞ きぎつ 天川もあきまをのあふを有られ
 つ
長秋御書
 人志とぬんやうひてあきやん ありま どの かうぎふた
 つ
六帖
 ちくにまづつがわぬ月を山嶺のまらぬ里よはあき 二 や まつ
 つ

左

何 色 徒

何 色 徒
長秋御書
 秋の月をささるる ぬり 花の雨を面粧す
 つ
長秋御書
 天川いそを流るる乃きらわつ 秋の七月れらあき
 つ
長秋御書
 ちのあをさきて ぞ きぎつ 天川もあきまをのあふを有られ
 つ
長秋御書
 人志とぬんやうひてあきやん ありま どの かうぎふた
 つ
六帖
 ちくにまづつがわぬ月を山嶺のまらぬ里よはあき 二 や まつ
 つ

ふ へ 世の度

全ふ
 ちのあをさきて ぞ きぎつ 天川もあきまをのあふを有られ
 つ
長秋御書
 ちのあをさきて ぞ きぎつ 天川もあきまをのあふを有られ
 つ
長秋御書
 人志とぬんやうひてあきやん ありま どの かうぎふた
 つ
六帖
 ちくにまづつがわぬ月を山嶺のまらぬ里よはあき 二 や まつ
 つ

徒 色
長秋御書
 月の香をささるる ぬり 花の雨を面粧す
 つ
長秋御書
 天川いそを流るる乃きらわつ 秋の七月れらあき
 つ
長秋御書
 ちのあをさきて ぞ きぎつ 天川もあきまをのあふを有られ
 つ
長秋御書
 人志とぬんやうひてあきやん ありま どの かうぎふた
 つ
六帖
 ちくにまづつがわぬ月を山嶺のまらぬ里よはあき 二 や まつ
 つ

○世の度

○世の度

右

境

ぞ

の

や

何

左

空

あづけいしうくく海跡よそふ
あまきうさや下はるあらん

あまきうさや人まのへまうらひあまきうさや
あまきうさやはわくじぞ

あまきうさこのまづまうそぞ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさや秋のつゆはこあらん
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさのむに今秋のつゆあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさ月うらなまうそ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさ秋のつゆあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

む 右

先 左

才 七 辰

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

あまきうさあまきうさあまきうさ
あまきうさあまきうさあまきうさ

○ 空のそ

○ 才九

右

を

も

徒

ぞ

む

む

む

む

む

花

の	や	何	花
後十七 後十一 此の海にまじりてはれなく 後十五 はせもさきつぬまや	後十五 秋のたけふまにけはるる	後十五 ままけてりのけしきふさふさくも	後一 花はみみまにふらぬ身

の [む] や [む] 何 [む] 花 [め]
 後 [む] 花 [む] 後 [む] 何 [む] 花 [め]
 後 [む] 花 [む] 後 [む] 何 [む] 花 [め]

か

き

花

花

花

石

そ	色	後	ぞ	の	や
後十七 此の石はの痛え	後九 タんをまのあと	後七 けふんがさみらうと	後十五 おまべようふま人のぞ	後十七 ときらけはけのま	後八 はくらの石この本

そ [む] 色 [む] 後 [む] ぞ [む] の [む] や [む]

〇花のむし

〇花

きん 右 きめ 左 才四十一段

才十七五段
つとむとてく風ととさゆめ若はらちふあはるくを寄 **きん**

才三三段
はたゆふつらぬく **きん** **きん** **きん** **きん**

才十八
あそしとそをぐとたていあへを寄 **きん** **きん**

原氏抄
あき人 **きん** **きん** **きん**

才十八
よはふのときききき **きん** **きん**

月夜
このたをかが月夜とあひ **きん** **きん**

千みるま
あがるん代の **きん** **きん**

才九
つ **きん** **きん** **きん**

才十七
湯屋生け百本の梅乃ちむ **きん**

(右)

そ

色

後

ぞ

の

(左)

や

何

そ

そ

後十七
あ **きん** **きん**

才二
あ **きん** **きん**

才十二
あ **きん** **きん**

才十
あ **きん** **きん**

才十
あ **きん** **きん**

才十
あ **きん** **きん**

なん 左 なめ 左 才四十一段

才十七
あ **きん** **きん**

才十八
あ **きん** **きん**

右

左

後 ぞ の や 何 ぞ

返二 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

てん

てん

左一 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

返二 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

左一 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

返二 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

左一 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

○三轉の外

ま

せはあさうらわ轉りて上のぼく三転の音のぶくんに三つをこ
ニつおもかたしきまゝにをうらふまゝにをうらふの音あり

も 色 徒 ぞ

左一 よのの中にききかたを換のまゝりせをまきかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

返二 よのの中にききかたを換のまゝりせをまきかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

左一 よのの中にききかたを換のまゝりせをまきかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

返二 よのの中にききかたを換のまゝりせをまきかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

ま

左一 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

返二 ちりぬまばらやまていしききかたをうらふを 撫まきんばきりてめ

○返のま

○四十六

ぞ の や の

はふこぞむぬるハ者こそぞゆりまき

ま

まらまば居うつりちりふまのふらゆきふりふこと

はのふふもまてふ浦のそ川

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

ら

は 色 徒 ぞ の や

三田川

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

はふふぬいふせき

○五のそ

○四十六

の	徒	と	と
---	---	---	---

注六
 注七
 注八
 注九
 注十
 注十一
 注十二
 注十三
 注十四
 注十五
 注十六
 注十七
 注十八
 注十九
 注二十

〇上。伴のほ。又。こ。し。る。と。決。り。な。す。と。い。ふ。も。と。こ。し。る。と。決。り。な。す。と。い。ふ。も。と。こ。し。る。と。決。り。な。す。と。い。ふ。も。と。

〇上。伴のほ。又。こ。し。る。と。決。り。な。す。と。い。ふ。も。と。こ。し。る。と。決。り。な。す。と。い。ふ。も。と。こ。し。る。と。決。り。な。す。と。い。ふ。も。と。

〇南の丸

〇四十八

とうふはあたまのなかからでておぼろしいのへきにうままり。うまの語の得るも
 ままのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに

○上の件はうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに

○古きまじりおまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに
 うまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへにうまのまへに

